

令和8年度 上祖師谷中学校 学校経営

次年度（ 令和8年度 ）に向けた改善方策

温知学舎 世田谷区立上祖師谷中学校
校長 古川 恵樹

① 学習指導（授業）について

学舎における学習指導の小中連携のスタイルを今年度より変更した。具体的には、「振り返り」から始まる「せたがや探究的な学び」をテーマとした授業研究を行うことには変更はないが、その方法の効率化を図るとともに、今年度からは、学習内容だけではなく生活指導、教育相談、働き方改革等の学び方も共通理解を図り、学舎の子供たちがより良い学びを行えるよう、日々の授業を様々な角度から振り返り、さらに授業の質の向上を図っていく。

また、校内における授業研究においては、ICT機器及びアプリ等を活用し、いつでもICTを活用した共同作業等が行えるようにし、生徒との時間をできるだけ確保しながら、授業改善に関する教材研究、話し合い等が行える環境を整えた。このことにより、組織的に効率良く授業改善を推進することができた。特にこれまでは、放課後等に担当学年が違う教員が時間を合わせ、課題等の共通理解を図っていくことが非常に難しかったが、ICT機器等の活用により、円滑に行うシステムが構築されたことは大きな成果であった。

引き続きの課題としては、一人一人の教員が様々な研修等へ、長期休業日等を活用し、主体的に参加すること等により、「生徒が主語となる授業展開の構築」の研究を進めるとともに、その中における教員の役割を今一度確認し、「令和の日本型学校教育」で求められている「生徒の主体的な学びを支援する伴走者」としての資質の向上を図ることを継続していく。

【令和8年度に向けた主な方策】

- (ア) 全教科において、50分の授業の「ねらい」を板書等で明確にするとともに、その「ねらい」に対する「振り返り」授業内で確実にを行うことにより、「何が分かったか」「何ができるようになったか」を生徒に自覚させ、自らが新たな課題を見出す授業を引き継ぎ研究するとともに、ユニバーサルデザインの視点をもった授業の研究を充実させる。
- (イ) 授業又は単元ごと等において、振り返りシートの記入を行うことで、各教科等の特質に応じた、「見方・考え方」を働かせながら、「主体的・対話的で深い学び」の実現を図っていく。
- (ウ) 各教科の評価は、単元または内容のまとまりごとに行うとともに、そのまとまりごとの評価を総合した評価を算出し、通知表等で評定と共に示す。
- (エ) 教科の評価は、教科ごとに責任をもって、年度当初の授業をスタートとし、定期的にその意義や評価方法等を生徒等に繰り返し説明していく。
- (オ) 「せたがや探究的な学び」をさらに推進し、思考力、判断力、表現力の向上を図る。そのために、学びを深める場面において①「様々な考えを共有することにより、新たな気づきをもたせたり、視野を広げたりする」協働的思考力②「正解や考え等に対して批判的な考察を行い、論理的で偏りがなく、物事を多面的に、客観的に捉える」批判的思考力③「様々な情報等からその正確さも含め判断し、解決策を追究する」創造的思考力を身に付けさせるための話し合い等の場面において、その話し合いは①～③のどれを行うのかを明確に生徒に伝えてから、活動を行っていく。
- (カ) 7月・12月に各教科においてアンケートを実施し、学校評価も含め、個々の教員が客観的に授業の振り返りを行い、授業の工夫、改善を行う。
- (キ) 学校全体の教育活動を通じて、一人一台のタブレット端末等の効果的な利活用を推進し、分かりやすい授業の構築及び情報リテラシー等のさらなる向上に努める。
- (ク) Qubenaを朝学習等で活用し、基礎基本の定着を図っていく。
- (ケ) 「授業を受ける姿勢」「教室等の環境整備」「授業の開始・終了」等の授業規律については、授業の基礎であるため、保護者にもこのことを十分に理解していただくとともに、御家庭での声掛け等も含め、一人一人の生徒が身に付くまで、繰り返し指導等を行い、学校全体として、今まで以上により一層良好な学習環境を構築していく。

② 生活指導について

問題行動等については、生活指導主任を中心として、学年主任、担任等が連携し、学校及び学年全体で情報の共有を図るとともに、組織的な対応を行っていく。また、指導に当たっては生徒指導提要进行を基に、積極的な生活指導を推進する。

また、生徒、保護者等への対応として、まず傾聴することにより、できるだけ正確な状況を把握するとともに、把握した情報を基に課題を明確にし、被害者側のケアの継続を含み、生徒の成長を第一に考え指導等を行い、生徒が安心して学校生活を送れるよう、個々の状況に応じた指導を行う。

さらに、様々な特性がある生徒への対応として、関係諸機関と連携を密に図り、保護者の方の御理解、御協力のもと、支援を進めるとともに、教員の力量が高められるよう、スクールカウンセラーの協力も得て、生徒理解に関する研修会等を実施する。

なお、校内にある掲示版等を活用し、指導の視覚化を図り、人権教育、デジタル・シティズンシップ教育等を行うことを研究し、生徒たちが主体的に考え、正しく行動するような指導の工夫を行っていく。

【令和8年度に向けた主な方策】

(ア) 【 共感的な人間関係の育成 】

「失敗しても次につなげられる雰囲気醸成されている」「間違いやできないことを笑わない」「なぜそう思ったのかを共有できる」「どうすればできるようになるかみんなで考えられる」等の人間関係を育成するために、人権教育及び道徳教育を充実させ、生徒の生活に安定感と落ち着きを定着させ、「健全育成と心の教育」、「デジタル・シティズンシップ教育」等を組織的に推進する。

(イ) 【 安全・安心な風土の醸成 】

お互いの個性や多様性を認め合い、安心して授業や学校生活を送れるような風土を醸成するために、教育相談室の充実をはじめ、毎月行う学校独自の生徒アンケート、「ふれあい月間」、「WebQ-U」生活アンケート等を活用し、校内委員会を充実させ、生徒の状況を細かく把握し、様々な課題に対応していく。

(ウ) 【 自己存在感の感受 】

特別支援教育等を推進し、特別な配慮を要する生徒や保護者等への対応について、細やかで継続的にスモールステップで行っていきけるよう、SC、巡回心理士、等の専門的な指導、助言を踏まえ、校内委員会において組織的に対応していくとともに、保護者、関係外部機関等との連携を密にしていく。また、教員のインクルーシブ教育及び特別支援教育に関する資質の向上を図り、ユニバーサルデザインの視点をもった授業を推進し、どの生徒にとっても分かりやすい授業を構築していく。

(エ) 【 自己決定の場の提供 】

問題行動等があった場合、当該生徒に対し、急いで謝罪の会等をもって終わりとせず、自分のしたことに対してしっかり向き合う時間を確保するとともに、自ら考え、課題に気づき、言動等を改善していきける指導を、地域、保護者等と連携して行っていく。また、奉仕活動や美化活動等については、その意義を考えさせることにより、主体的に実践していきけるよう引き続き指導をしていく。

③ 学校行事等について

本校の学校行事は、生徒、保護者ともに「達成感がある」「楽しい」という状況がアンケート等から読み取れ、生徒一人一人が、主体的、かつ意欲的に活動が行われていると考えている。今後は、再度各行事のねらいを明確にし、精選を図り、身に付けさせたい力を適切に向上させるとともに、授業内で行える体験学習等の機会を効率よく増やし、学校行事の充実を図っていく。また、様々な体験学習等の機会を地域・保護者等と連携し、さらなる達成感や、達成感が得られるよう工夫に努めていく。

【令和8年度に向けた主な方策】

(ア) 新たに時間を設定せず、授業を外部機関等と連携した体験学習を本校の教育活動に積極的に取り入れる等の工夫を研究し、学校行事等のさらなる充実を図っていく。

④ 特色ある教育活動

本校の特色ある教育活動の『平和学習』を引き続き深化させ、人類がこの地球で幸せに暮らし続けるために考え、行動する「SDGs」17目標にテーマを広げ、1年生から3年生までで一貫した探求的な学習に挑戦していく。

さらに、学舎の小学校との連携も模索しながら、漢検、数検、英検の資格の取得に挑戦できる場を設定し、主体的に学習に取り組む生徒の育成を目指す。

⑤ キャリア・未来デザイン教育（進路指導等）について

キャリア・未来デザイン教育を充実させるために3年間を見通し、自己理解、職場訪問、職場体験、上級学校訪問、ボランティア活動等、様々な体験活動を通して、キャリアプランニング能力の育成と力強く未来を切り開いていく力を育てていく。

【令和8年度に向けた主な方策】

- (ア) キャリア・パスポート等を活用し、各学期末に行われる三者面談等で、生徒自身が教員及び保護者等に学んだことプレゼンテーションすることを引き続き行い、「身に付けたこと」「成長したこと」等をアウトプットするとともに、自分の今後のキャリアを考えて「これから身に付けていきたいこと」等を明確にさせ、そのことに対し、主体的に学びに取り組めるよう指導していく。
- (イ) 地域・保護者の連携のもと、地域等の教育力を活用し、生徒が自己のキャリアを考える校外学習及び体験学習等を実施し、地域等を含めたチーム上祖師谷中学校として、組織的に教育を行っていく。
- (ウ) 年間2回の面談等で、個々の能力・希望・特質にあった進路指導を行い、個に応じたキャリア形成を推進する。
- (エ) 不登校生徒の進路に関する講演会等、上級学校、PTA及び外部関係機関と連携を図り、様々な情報を発信するとともに、個々の生徒の状況を踏まえ、スモールステップの目標をもたせたり、ICT機器を活用等による支援をしたりすることを推進していく。

⑥ 部活動について

令和7年度は校庭改修工事等が行われ、校庭を使用する部活動の活動が大幅に制限された。令和8年度は大規模改修工事が終了し、改善された環境のメリットを十分に活かし、生徒の活動を充実させていく。また、引き続き、部活動を通して、スポーツや文化・芸術に親しむとともに、異年齢の生徒が集団で行う活動の中で、主体性を育むとともに、社会性、責任感、連帯感、体力向上や様々な技能の取得等を行っていく。また部活動については、安全、かつ安心して活動ができる環境を整えていくとともに、専門性が高い部活動支援員の積極的な活用を行っていく。

さらに、教員の異動等を鑑み、顧問の配置、実施形態等について十分に検討するとともに、学校と地域が連携し、部活動の継続的・安定的な充実を図れるよう努めていく。

⑦ 教職員について

令和7年度に、教員によるモラルに反する行為が新聞、テレビ等で大きく報道された。このことを踏まえ、教職員の法規法令の遵守を今まで以上に徹底する。特に教職員が教室等への私物のスマートフォン等の持ち込み禁止、定期的な校内の安全点検等を行う等、生徒たちが安心して学校生活を送れる環境を整える。

また個々の教職員については、業務の効率化、授業力向上のための自己研鑽等を主体的に行うとともに、生徒との関わりについて、可能な限り生徒と接する場面や時間を費やし、教員が生徒と向き合う時間を大切させていく。

さらに一人一人生徒の特性を活かすとともに、共生社会の形成に向けたインクルーシブ教育の理解と実践を推進していく。また推進する際、学校の現在の設備、状況等を鑑み、インクルーシブ教育及び特別支援教育等における対応の中で、できることと難しいことを生徒、保護者等に対

し、しっかり説明していく。

【令和8年度に向けた主な方策】

- (ア) 最新のiPadの機能等を十分使いこなせるよう、自己研鑽等を行い、ICT活用のスキルの向上を図るとともに、生成AI等を活した授業展開等の研究を行っていく。
- (イ) 今年度もWEBQUの結果を分析し、定期的に各学級の状況及び生徒理解について学校全体で共有し、より良い人間関係を築き、全ての教職員が同一の方針の、生徒指導を確実にけるよう、生徒一人一人への声かけに努め、生徒の何気ない発言や行動にも注意を向けられる危機意識を身に付ける。
- (ウ) 令和7年度に教職員の校内研修にて学んだ「PEP TALK」を授業等において実践し、生徒の「やる気」「自己有用感」等を高める。
- (エ) 従来の一斉授業スタイル等から転換を図り、令和の日本型学校教育を推進していく。
- (オ) 人員、施設等、学習活動を円滑に行うことができない状況であっても、与えられた現状の中で、様々な課題に対し、「どうすればできるか」を考え、行動する。
- (カ) 学校運営、学年運営で、個人面談等を充実させ、不登校生徒等へも丁寧な対応を行うとともに、関係諸機関及び保護者と連携して生徒の健全育成に努める。
- (キ) 服務について、法令遵守を常に意識し、常に一人一人が自己を振り返ることを行うことにより、生徒・保護者から信頼され、学校の教育目標を具現化するために努力する教師集団を目指す。
- (ク) インクルーシブ教育を理解し、ユニバーサルデザインの視点を持った授業展開等を行うとともに、特別支援教育の視点での、生徒一人一人への指導を行いながら、個別最適な学びが行えるよう努める。

⑨ 広報活動・情報提供等について

学校ホームページを活用した情報発信は、令和7年度の学校評価アンケートにおいても保護者、生徒から高い評価を受けている。ホームページの更新における、リアルタイムで学校の状況が報告できる良さを継続させるとともに、世田谷区から教員に貸与されているiPadを使用して写真の撮影等を行うことより、公的な写真撮影及び個人情報の保護には最新の注意を払いながら、今後、さらに効果的に情報公開を行っていく。

また、引き続き「すぐーる」を活用し、学校からのお知らせ等をこまめに発信していく。なお、未読等により、情報の周知がされないことが無いよう、お知らせ等は「すぐーる」を活用していくことについて、保護者等に周知を徹底していく。

⑩ 地域との連携について

生徒のボランティア活動等の地域活動を積極的に進めてきたことが評価されている。このことを踏まえ、今年度もより一層地域との関わりを多くさせていく。そのために、学校運営協議会（学校地域支援コーディネーター等含）と学校内の経営支援部との連携を密にし、「教員の働き方改革」の推進を図るとともに、ボランティア等の地域活動に参加する生徒の支援を充実させていく。

【令和8年度に向けた主な方策】

- (ア) 年間の地域活動を生徒に示し、地域の一員として、ボランティア等の地域活動へ主体的に参加していくよう働きかける。
- (イ) 学校運営協議会等と連携を図り、ボランティア活動を進めていく。その際、引率等については学校運営協議会のボランティア支援チーム（仮称）と連携等し、教員の異動等があっても、地域で中学校のボランティア活動を支えるシステムを構築し、ボランティア活動を持続可能な形に整えていく。
- (ウ) 避難所開設訓練には一学年全員が参加し、地域の一員として防災訓練にて災害時に活動できるよう生徒の資質の向上を図っていく。

⑪ 学校の安全性について

施設については、令和7年度をもって、長期にわたる改修工事は終了した。しかし、給食室、体育館等は今回改修が行われていないため、引き続き、不具合等が見つかることがあるため、安全点検を定期的に行っていくとともに、修繕等が必要な個所については、教育委員会等と連携し、速やかに改善し、生徒が安全に学校生活を送れるように努めていく。さらに、不審者等への対応として、保護者の方及び業者等の御協力の下、ネームプレートの着用等の徹底を図っていく。

【令和8年度に向けた主な方策】

- (ア) 不審者等への対応等、危機管理について、迅速かつ的確に対応していくよう努めるとともに、保護者、地域とへの
- (イ) 避難訓練は様々な状況を想定し、実施していく。また、引き続き地域と連携して行う避難所運営訓練を行い、防災等に関する対応力と意識を高めていく。

⑫ 保護者について

保護者と連携を図り、生徒を成長させることを第一に考え、共育をしていく。なお、SNS等の使用時に起こるトラブルの増加傾向を受け、情報モラルに関する講演会等が学校で行われる場合は、保護者等にも周知し、生徒と共に知識を深めていただく等の啓発活動等を行っていく。

さらに、PTAや地域との連携を密にし、生徒たちのために三位一体となって、手を携えながら学校を支える体制の構築に努める。

⑬ 学校教育目標について

令和8年度も令和7年度からの変更せず、自ら学び、考え、判断し、進取の気風のもとに、共同してよりよい社会、持続可能な社会を築き、未来を切り開いていく生徒の育成を目指して次の教育目標を定める。

『自主・自律』

『自主』…直面する諸々の課題に対して、学んだ知識や技能を使って、あきらめることなく探求心をもってその解を求めぬいていけること

『自律』…夢や希望を現実のものとするために、社会的規範に従って自己を律すること

目指す生徒像

- 不屈の精神をもって夢の実現に努力する生徒
- 人権を尊重し、他者を思いやれる心豊かな生徒
- 進取の気風をもって未来を築く生徒